DX　プロジェクトの企画書の立て方

・抜け漏れなく説明する。

５W1H を使用して説明する。

What, why, where, who, when, how

What,

何を作るか？

デジタルサービスの概要を説明

どういう作業がデジタル化によってどのように変わるか？

Why

デジタルサービスを使用する理由

なぜ新しいシステムを使用するのか？を明確にすることが大事。

理由は一つだけではなく複数考える。（多くの視点を持つことが大事、人員だけでなく、ミスが減るみたいな）

わかりやすいことが大事

Who,

誰がどういう機能を使用するのかを明確にする。

お客だけでなく、店舗スタッフはどうなのか？みたいなところも見ることが大事。

Where,

どこで使用するのか？

どういうシチュエーションで使用されるのかを明確にする。

家でもできるようにするのか？店舗のみなのか？

When,

いつ使用するのか

注文の時だけなのか？

How

どのように使用するのか？

・そもそも顧客が求めているのは何か？

今あるものだけで考えるのはやめた方が良い。そもそもどのようなものをユーザが求めているのか。目的を明確にしておくことがものすごく大切。

・優先順位を立ててD X化を考える。

単純作業とか繰り返し作業を自動的にできないかどうかを考える。

一部だけデジタル化するというような発送も必要

・説明するときは画像を使用する。

そうすることでどのようなサービスを使用するのかをイメージしやすくなる。

またそうなったことで共感を得られやすくなる。

・Before/After で比較する。

Before と比較することによって、どのように変わるのかが明確になりやすいから大事

・業務効率は時間を金額で考える。

導入することによって、どれ時間が短縮されるみたいな話だけではなく、

どれだけ金額が削減されるのかを言えるともっと良くなる。

・相手に刺さる言葉を選ぶ。

単に「自宅から会議に出席できるようになる」というよりかは、

「子供とかが風邪をひいて自宅で会議が出られなくなり申し訳なかったが、これから自宅でも会議に出られるようになります。」みたいな感じ。

悩みを解決するようなフレーズを入れるようにすることが大事

・目的・目標・成果を明確に。

これらを明確にしなければ、やる意味があるのか？やっただけにしないようにする。ことが大事。

・テストを行う。

小さい単位でテストを行う。前に事例があったとしても環境が変わったら使用することができるかはわからないので。小さい単位でテストを行なっていくようにする。

・段階的にD Xを行うようにする（機能ごとに行おう）。

一気にやろうとすると、達成するのに時間がかかってしまう。そのため、アジャイル開発のように小さいものから少しずつD Xを行うようにすべき。

・リスク管理もしっかりする。

D Xを導入することによってどのようなリスクがあるのか？などを明確にする必要がある。

個人情報は漏れないかどうかも大事。